

## SDGs未来都市・横浜の取組について

### 1 SDGs未来都市・横浜の取組の経緯

平成30年6月 国から「SDGs未来都市」・「自治体SDGsモデル事業」に選定

【SDGs未来都市が目指す横浜の像（ビジョン）】  
 「環境を軸に、経済や文化芸術による新たな価値を創出し続ける都市の実現」  
 （「中期4か年計画（2018～2021）」が掲げる都市の将来像を共有）

【自治体SDGsモデル事業】  
 環境・経済・社会各分野での取組相互の連携を図り、価値を高め、都市のプレゼンス向上につながる仕組みとして「ヨコハマSDGsデザインセンター」を創設

平成31年1月 ヨコハマSDGsデザインセンターについて、市民協働条例に基づく市民協働事業として、共同事業者を公募・選定のうえ、開設（期間：平成30年度～令和2年度）

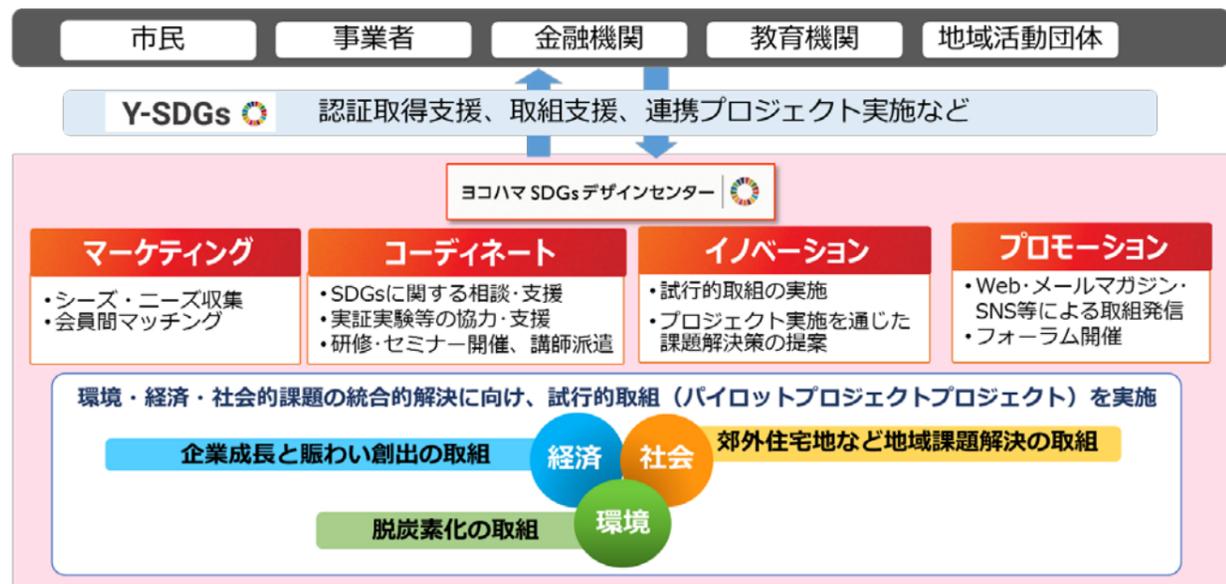
3月 初の試行的取組（若葉台オンデマンドバス実証実験）を開始。以後段階的に試行的取組追加

令和2年8月 横浜市SDGs認証制度”Y-SDGs”を開始（令和2年度中は2回募集）

令和3年3月 ヨコハマSDGsデザインセンターについて、共同事業者を再公募のうえ選定（期間：令和3～5年度）

### 2 ヨコハマSDGsデザインセンター

市民や事業者をはじめとした多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織。SDGsに関するマーケティングやコーディネートを行い、イノベーションの創出により持続可能な都市の実現を目指す。



(1) 会員数 735 者（令和3年5月13日現在）

(2) 相談件数 約250 件（令和2年度実績）

#### 【相談内容例】

- ・自社がSDGsに取り組んでいることをPRしたい
- ・SDGsに資する技術等をどのように社会実装につなげられるか知りたい

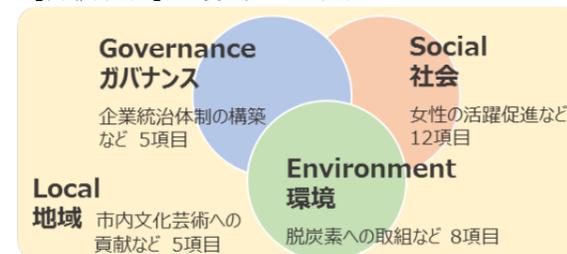
(3) 試行的取組 15 事業（令和2年度末現在）※裏面参照

### 3 横浜市SDGs認証制度”Y-SDGs”

市内外の企業等の持続可能な経営・運営への転換に向けた支援や、金融機関等による投融資判断の材料としての活用を目的とした認証制度。令和2年度は2回の認証募集を通じて、計148事業者を認証。

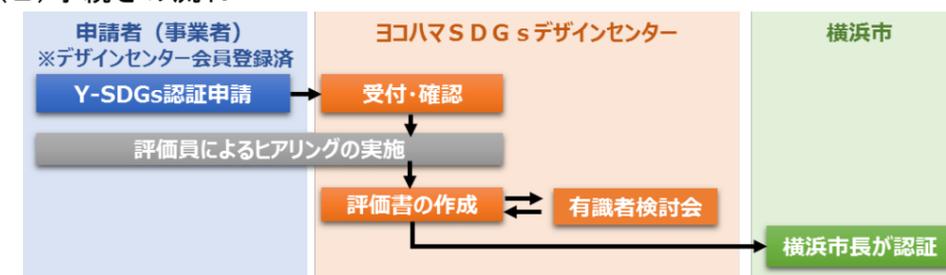
(1) 評価項目・認証区分等

【評価項目】4分野・30項目



認証区分	認証マーク	認証事業者数
【最上位】Supreme (スプリーム)	Y-SDGs -supreme-	5 事業者
【上位】Superior (スーパーリア)	Y-SDGs superior	31 事業者
【標準】Standard (スタンダード)	Y-SDGs -standard-	112 事業者

(2) 手続きの流れ



(3) 認証期間

認証を受けた月から2年間（期間中により上位の認証取得を目指し再度申請することも可能）

(4) 認証のメリット

- ・中小企業融資制度「よこはまプラス資金」融資対象（最上位・上位認証のみ）
- ・本市発注工事（総合評価落札方式）評価項目での加点対象（最上位・上位認証のみ）
- ・認証マークの活用による取組PR、市ホームページ等での取組紹介 等

(5) 令和3年度以降の認証募集時期

年4回実施（概ね四半期ごとに募集、1回あたり上限50件を目安）

※令和3年度第1回認証は、4月27日～5月14日の期間で募集し、5月11日時点で上限を超過したため募集終了

### 4 今後の方向性～SDGsを原動力とした脱炭素化の取組～

(1) SDGs bizサポート事業（くらし・経済対策予算事業）

- ・令和2年度に、市内の事業者等を対象に、SDGsによる地域課題解決と「新たな生活様式」を両立する先駆的な事業を支援する「SDGs bizサポート補助金」を計83団体に交付
- ・補助金活用事業者の取組に関する新聞広告を掲載するなど、企業版ふるさと納税も活用し、積極的にプロモーションを実施
- ・令和3年度は、脱炭素化に資する実践行動やイノベーション創出に向けた取組に優先的に助成

(2) 金融機関と連携した事業者向け脱炭素ガイドラインの作成及び実践

市内事業者の脱炭素化（更なる省エネ、太陽光・蓄電池導入、再エネ電気切替など）を促進するため、金融庁が策定するガイドライン等を踏まえ、ヨコハマSDGsデザインセンターや金融機関と連携して、横浜の地域性を生かした脱炭素化・SDGsの取組を促進する新たなガイドラインを作成・普及

企業等と連携した試行的取組（パイロットプロジェクト）【15事業】※令和2年度末時点

1 ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト



道志村の間伐材を原料とし、障害者の方々が製作する横浜産の木のストロー「SDGsストロー・ヨコハマ」の普及拡大により、脱炭素化や海洋プラスチックごみ対策につなげる。（横浜ベイシエイトンホテルで提供中）



2 ショートタイムテレワーク実証実験 SoftBank

ICTを活用した短時間勤務を職住近接で実現。新しい働き方「ショートタイムテレワーク」を提案。



3 快適な移動手段の充実PJ ①  
～旭区若葉台～



旭区若葉台地区にオンデマンドバスを導入。子育て世代・高齢者などが移動しやすい快適なモビリティ環境の形成を図る。



4 快適な移動手段の充実PJ ②  
～栄区上郷ネオポリス～



栄区上郷ネオポリスにおいて近距離モビリティを活用した実証を実施。人の移動による社会課題解決など誰もが自由に移動手段を選択できるまちの実現を目指す。



5 SDGs ライフデザインプロジェクト  
『SDGsハウス』



SDGs17ゴールに貢献する住まいや暮らし方を、木造のモデルハウスを舞台に、環境配慮型の家具や生活用品などを使って来場者にSDGsの行動実践を促進



6 資源循環型エコサイクル実現に向けた取組



廃棄物の有効活用と、当該取組による地域コミュニティの活性化等によって、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る。



7 ヨコハマ“SDGs & Zero Carbon”プロジェクト

様々なステークホルダーが持つニーズ・シーズを共有・マッチングさせることで、温室効果ガス削減につながる製品・サービス・取組の発掘、普及・展開、ビジネスチャンスにつなげる。



8 金融機関と連携した  
イノベーションマッチングプロジェクト



市内事業者がSDGsをビジネスで活用出来るよう金融機関が支援。市内事業者によるイノベーション創出を目指す。



9 バイオ燃料地産地消プロジェクト



CO2を吸収して成長する微細藻類と市内飲食店などの廃食油を原料としてバイオ燃料を製造。様々な場面で利用拡大を図り、バイオ燃料の地産地消を目指す。



10 ヨコハマSDGsアイデア博

デザインセンター会員から募集したSDGs達成に向けたアイデアやアクション（提案）を広く発信し、イノベーション創出を目指す。



11 ヨコハマSDGs体感月間

市内のビジネス・アート・エンターテインメントなどあらゆるジャンルの様々なイベントを通じ、学びながら、楽しみながらSDGsを体感できるキャンペーンを展開



12 環境絵日記こどもサミット



環境絵日記を通じて全国から集まった小学生たちが、自分たちの描く未来を語り、大人との意見交流会等を通じて、こどもたちから未来へ向けたメッセージを発信



13 海と教室をライブ映像でつなぐ海洋教育プログラム  
“海中教室”①



市内小学校の教室と海をライブ映像でつなぐ授業を通じ、子どもたちが身近な海の環境や海洋プラスチックごみ問題等について学び・考える場を提供



14 様々な課題解決に取り組む  
人材育成支援の仕組み検討「アカデミア」  
“海中教室”②



アカデミアの具体的なソフト事業として、海中教室を市内中学校に水平展開。教室と海をライブ映像でつなぐ授業を通じ、身近な海の歴史や環境を、海洋プラスチックごみ問題等について学び・考える場を提供



15 SDGs体感住宅地開発プロジェクト  
東急田園都市線沿線地域

大都市近郊の郊外住宅地が抱えている様々な課題に対して、地域住民・行政・大学・民間事業者の連携・協働によって解決していく、従来にない住民参加型・課題解決型プロジェクトを実施

